

令和4年度 焼津市自治基本条例

まちづくり市民集会・大ワールドカフェの報告

令和5年1月14日(土)実施

焼津市自治基本条例 まちづくり市民集会実行委員会

実行委員会からの報告 ～第9回 まちづくり市民集会～

令和5年1月14日(土)焼津文化会館小ホールにて、9回目となる「まちづくり市民集会」を開催しました。一般参加の市民や学生をはじめ、自治会関係の方、市長、市議会議員、市職員等、10代から80代の多様な世代・立場の100名を超える多くの方々にご参加いただきました。新型コロナウイルス感染症対策として規模は縮小したものの、3年ぶりの対面方式で開催をすることができ、改めて、まちづくり市民集会に関わっていただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。

実行委員会では、市民集会の成果を今後のまちづくりに生かしていけるよう振り返りの話し合いを行い、市民・議会・行政の皆さんと共有するため、本報告にまとめました。

●テーマ「住みたいまちは自分たちでつくろう～何ができるかみんなで考えよう～」

第1回の市民集会(平成27年3月)は「焼津市の未来・わたしたちの暮らしと自治基本条例」をテーマに開催しました。その時の話し合いで、まちづくりには「人とのつながり」や「お互いを知る」ことが大切だということを再認識し、第2回は「『縁』とつながりで育む「住みたい焼津」」をテーマとしました。回を重ねるごとに、まちづくりに対する想いやアイデアなどが参加者の皆さんからたくさん出てくるようになりました。テーマを決める際は、「人とのつながり」を念頭に置きつつ、その時期に焼津で一番ホットなテーマを設定しています。

今回のテーマの決定にあたっては、新型コロナウイルスの影響による地域の行事などの自粛により、住民同士のコミュニケーションが薄れてしまったことから、課題は「地域コミュニティの再構築」ではないかと捉えました。少しでも、地域のみんながつながり、支え合い、いつまでも住み続けられるまちにするために、一人一人が何ができるか、みんなで何ができるか、ということを前向きに話し合いたいと考え、このテーマを設定しました。



和やかな雰囲気 笑顔がたくさん見られました

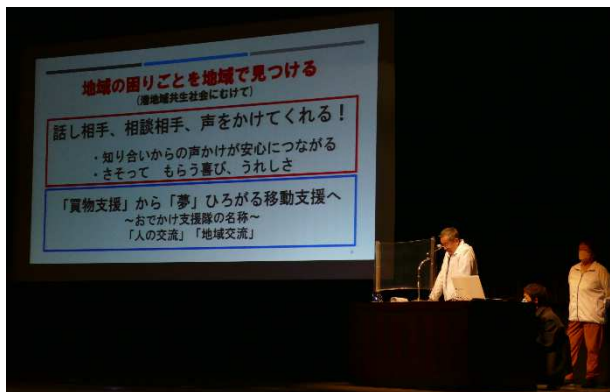
●話題提供をグループワークのヒントに

今回のテーマについて、身近な問題としてより深く考えるために、グループワークの前に、「港地域づくり推進会」より、話題提供をしていただきました。

「港地域づくり推進会」は、第14自治会、第23自治会の二つの自治会で構成され、地域の課題解決のためのさまざまな活動を実施しています。

その活動の一つとして「港地域おでかけ支援隊」は、高齢者の買い物のほかちょっとしたお出かけなどの「お出かけ支援」で、コロナ禍の外出自粛による孤立からお年寄りを守る取り組みです。

地域住民の困りごとを地域住民の支援でその解決に取り組むもので、住みやすい地域を自分たちで育てている例としてお話しいただきました。



話題提供 港地域づくり推進会

●グループワークでは「私たちが住みやすいまちにするた

めに、あなたができること、みんなでできること」について、たくさんの意見・ヒントが出ました。

16のグループからたくさんの素晴らしい提案がありました。それらの提案を「あらゆる世代が支え合い“つながろう”」「オールやいづ」のまちづくり」とまとめました。

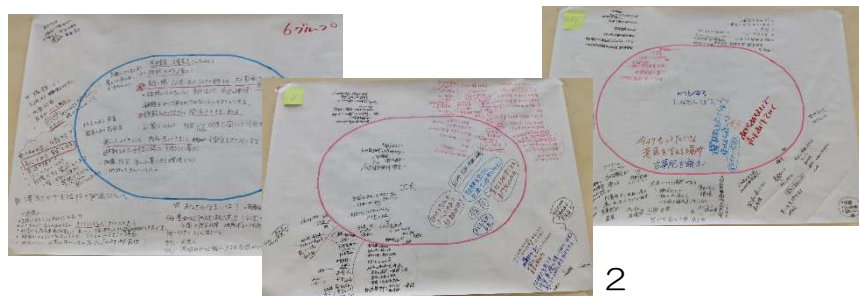
「住みやすいまち」とは、みんなの居場所があり、世代間の交流ができていくまちで、そのために地域でのコミュニケーションを大事にし、集まる場所を作り、その情報を発信することが大事、との意見が多くでました。

(4ページに提案のまとめ、5ページ以降に全グループの「発表内容シート」をまとめました)



どのテーブルも話し合いが盛り上がりっていました

年齢や立場に関係なく熱く楽しく語り合いました



テーブルごと模造紙に
たくさんの意見が
書き込まれました

●学生の活躍

今回も、多くの高校生・大学生が参加してくれました。住みやすいまちづくりのために、若い世代として何ができるのかを大人に交じって真剣に考えてくれました。学生たちはみんなしっかりと自分の意見を持ち、積極的に発言して、同じテーブルの大人たちは大いに刺激を受けていました。

最後のテーブルごとの発表では、代表として発言する学生の堂々としたスピーチに、会場は大いに盛り上がりました。

●新しいものが生まれる場に

10代から80代の様々な立場の参加者が同じテーブルにつき、意見を交わしました。

みなさんたいへん積極的で、これまでの市民集会の積み重ねの成果だと感じました。

まちづくり市民集会は、いろいろな意見を聴くことで参加者に“気づき”や“交流”が生まれることを目的にしています。

「できることが、自分が思っている以上にあるのではないかと思った」「地域貢献に関わりたい気持ちが高まった」「何かやってやろうという気になった」など、前向きな感想がありました。

また、新しいつながりもできているようでした。

今後も“気づき”と“交流”が生まれる場づくりを工夫して作っていきたいと思います。



新たな気づきや交流が生まれ、みなさんに披露しました

●今後も「まちづくり市民集会」へのさらなるご参加・ご支援をお願いします。

アドバイザーの松下啓一氏は、この市民集会自体が全国的にも稀少な焼津のまちづくりの資源だと指摘しています。市民の手づくりの「まちづくり市民集会」が、年々発展しながら継続していけるよう、市民、議会、行政の、さらなるご参加とご支援を、引き続きよろしくお願いいたします。

住みたいまちは自分たちでつくろう ～何ができるかみんなで考えよう～

あらゆる世代が支え合い “つながろう” 「オールやいづ」のまちづくり

あなたができること

地域活動

- ・地域社会に顔を出す
- ・地域のイベントなどに積極的に参加し、交流の機会をつくる
- ・子供会の参加

コミュニケーション

- ・目を見てあいさつ
- ・声かけし合う
- ・近所の人との会話、近所付き合いを大事に

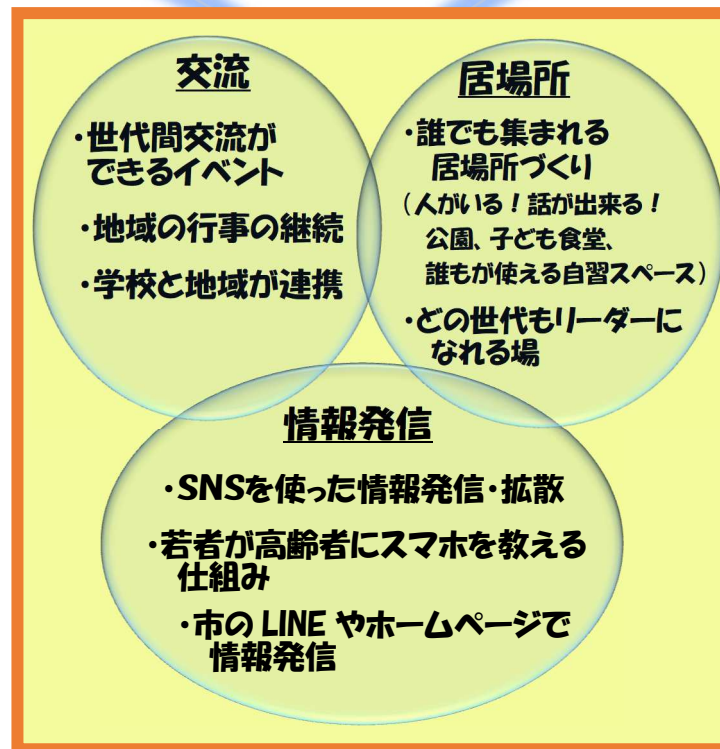
情報

- ・仲間づくりを SNS で発信
- ・焼津市 LINE 公式アカウントの拡散活動

その他

- ・年代に応じたことができる
- ・多方面、多分野の友達を作ろう
 - ・個性を大切にする
 - ・人とのつながりを考えつづける
 - ・自分ごと化

「つなげる」仕組み



みんなでできること

地域活動

- ・行事の継続
- ・イベントに参加して交流の機会をつくる
- ・地域清掃を通して幅広い世代を繋げる
- ・自治会ごとの運動会の復活

コミュニケーション

- ・仲間づくり 孤立させない
- ・向こう三軒両隣

交流

- ・文化祭に焼津市民を招待
- ・高齢者と中高生との交流の機会をつくる
- ・中学生、高校生の地域での会合
- ・地域でもミニ市民集会を開催する
- ・子供会の参加、異年齢の交流ができる工夫

情報

- ・若者によるスマホ教室
- ・SNS で情報発信（紙ベースも併せて）
- ・回覧板以外の情報ツールも利用

場所づくり

- ・自分が楽しめる、皆が楽しめる場所づくり

発表内容シート

「私たちが住みやすいまちにするために
“あなたができること” “みんなのできること”」

1 テーブル

個人

目を見て
あいさつ } 言葉で過ごしやすいまちにする
会話 }

みんな

地域イベントを増やす
→ 宣伝をデータと紙媒体で、どの世代にも伝わるように
子ども食堂、ペットで交流が生まれる

2 テーブル

「SNSで発信」

- デジタルが普及 → もっと簡素に
- 色々な関係機関と連携が大切
→ 例：学校ごと若者へ発信
- 「人づくり」「仲間づくり」

3 テーブル

「地域の中高生と高齢者との交流」

- 地域でもミニワールドカフェ開催
- 高校の文化祭に参加

4 テーブル

- 焼津のものを食べながら交流する
- “自分ごと化”
→ コミュニティスクールの活用
→ まちづくりに学生を参画させる

5 テーブル

私たちが住みやすいまち



- 仲間がいる
- 近くに見守ってくれる人がいる
- 人が集まってくるまち
(特に若者が)
- 自然が豊か、美しいまち
- 食(さかな)・温泉

“あなたができること” “みんなでできること”



- まわりの人に声をかける
- 仲間づくりに企業をまきこむ



そこに行政も協力する

- 集まる場をつくる
(小さいところ+ランドマーク的なものを…
若い人が来たい場所)



インフルエンサー情報発信 → • 買い物ができる(オシャレな場所)、温泉、食べ物
• インスタ映えする きれいなところ

6 テーブル

安心安全な街づくり

個人ができること

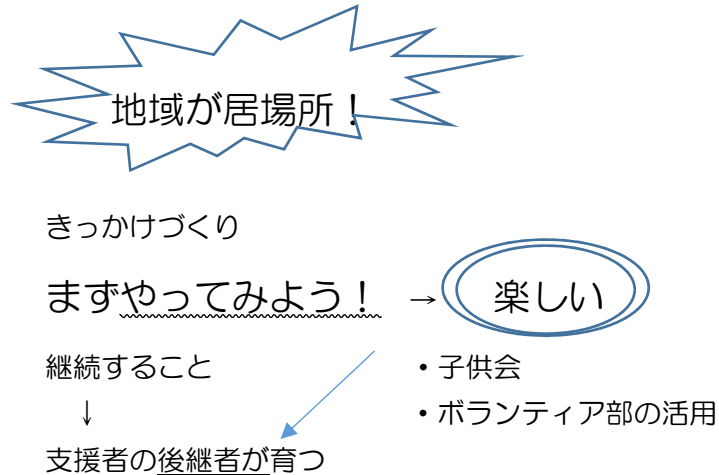
みんなで・グループでできること

- 年代に応じたことができる
- 街歩きで課題を見つける
- 近所づきあいの大切さ

7 テーブル

行事

- ・お正月
- ・豆まき
- ・ひなまつり
- ・お花見
- ・端午の節句
- ・（七夕）
- ・夏まつり、屋台、盆踊り
- ・秋まつり
- ・ハロウィン
- ・クリスマス



8 テーブル

- ・一人一人
- ・地域全体

- ・地域の中での支え合いには、熱意（気づく力）、地域がバックアップしてくれる、行政に頼らないということが必要。
全員が賛同できることは不可だが、話すことで協力者が生まれる。
支え合いには 工夫 が必要であり、支える方も支えられる方にとってもWINWINの関係が生まれるシステムを作ることが大切
（安心安全な支え合い）
自助、公助、共助、互助の共助、互助を変えていく ボランティア のあり方を変えていくことが大切。
↓
支える側が納得して
できる仕組みをつくる
- ・市全体を分野別でなく、コラボして考える トータル的に考えることでやることに価値がでてくることを意識して実践することが大切

9 テーブル

私たちが住みやすいまちにするため

地域の公会堂をもっと使った方がよい → いつもガラガラ

◎地域をまとめるキーマンが必要
(コーディネーター)

地域のカギとなる人 

けん玉や料理、防災、工作などいろいろな知識を持つ人 (キーマン) (アウトプット)

→ 地域でさがす!

おでかけ支援	利用者	支える人	車
	使いたい方	(ボランティア)	
		キーマン	

キーマンが少ない、見つけにくい

◎キーマンを見つける、作る、仕組みづくり

地域の情報を知ってるキーマン

- キーマン 
- コーディネーター (まとめる) マッチング

10 テーブル

• 声をあげる → まとめる → 伝える

そのために

- 窓口の明確化
- 周知

11 テーブル

「人とのつながりを増やすこと」

- ・外へ出ない
- ・コミュニケーションが無い



交流の場の発展（難しい世の中だが、まず外へ出る）

- ・公園の利用促進（地域イベント 祭り、運動会、目的でしターンする者も）

皆で参加する

- ・地域の清掃 → 美化につながり相乗効果



これを決めるにあたり・・・

自治会上層部だけではなく、様々な世代で案を出す。

実現できたら、

最終的には、笑顔、人の話を聞く、否定しない。を心がける

→ 人間関係面で、住みやすいまちにつながる

12 テーブル

近所でコミュニケーションをとりやすい地域作り



あいさつ運動、近所の人と会話をする。ビビキャンのような安心して自習できるスペース、自治会ごとの運動会の復活

13 テーブル

- ・みんなで提案

→自分たちではできないこと（解決できない課題）はみんなで提案

- ・交流

いざという時にお互いが助け合えるような関係づくり
（あいさつや祭りとか）

- ・公園

普通に利用すればいざという時も使える

ただつくるだけでなく、地域の人も使うことによって、
価値のあるものにする

自己主義
じゃなくて
利他主義

14 テーブル

助けて欲しいと声をあげやすい } バランスがとれるまち
頑張りたい } 気持ちを尊重する
生きたい }

- ・人とのつながりを考えつづける
- ・広い焼津のそれぞれの地域を合わせた景観づくり
→ 人のくらし、想いを反映しやすい
- ・具体案を話しやすい場をつくる、続ける
- ・町の実情をチェックする機能が必要ではないだろうか

15 テーブル

安心 安全が必要

- 健康確保 病院等
- 交通の便 車・バス・電車

これら地域で運営 活用するため、公民館・自治会館を利用するため条例化する
市と公民館と市民のボランティアの組織を作り、学校との連携
情報の窓口や居場所作り
困っている人のニーズ集め → 身近にある各自が出来る事

市 — 公民館（館長さん） — 市民ボランティア — 発信
自治会館
市の職員さん
有料化
若いスタッフが気軽に参加

16 テーブル

若者が情報を得られる場所を作る

- ・LINE 公式アカウントをもっと広める。
- ・高齢の方にスマホの使い方を教える。 実践しました！！
- ・焼津の YouTube を楽しいものに。親善大使の出演など。

↓

河津桜を植える活動

↓

若者が参加できるきっかけを作る。